

NS-P285

(NS-P285: NS-B285 + NS-C385 + NS-SW280)

5.1ch スピーカーパッケージ



取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
ごさいます。

- 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。
- 保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意

ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。



警告

電源/電源コード



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なおいや音が出る。
 - 異常に高温になる。
 - 内部に水や異物が混入した。
 - 煙が出る。
- そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず実行

必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

分解禁止



分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。



禁止

放熱のため本機を設置する際には:

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
- 仰向けや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。



必ず実行

スピーカーケーブルは必ず壁などに固定する。

ケーブルに足や手を引っかけるとスピーカーが落下や転倒し、故障やけがの原因となります。

使用上の注意



本機の通風孔やサブフーアーのポート(右側面開口部)等にもものを入れたり、落としたりしない。
火災や感電の原因になります。

禁止



本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行



雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

接触禁止



本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

禁止

手入れ



電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

必ず実行

⚠ 注意

電源/電源コード



長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。

プラグを抜く



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

ぬれ手禁止



電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

禁止



電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

必ず実行



電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

禁止

設置



不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止



直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止



ほこりや湿気が多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

禁止

移動



移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

プラグを抜く



持ち運ぶときにはサブフーアーのポート(右側面開口部)に手をかけない。

ポートがはずれたり、本機を落としたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

使用上の注意



電源を入れる前や、再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

必ず実行



音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止



サブウーファースのポート(右側面開口部)には手を入れない。

感電やけがの原因となることがあります。

禁止



サブウーファースのポート(右側面開口部)のそばには割れやすいものなどを置かない。

ポートからの空気圧により倒れたり落ちたりして、けがの原因となることがあります。

禁止



本機に乗ったり、寄りかかったりしない。

転倒・落下したり破損したりして、けがの原因となることがあります。

禁止



接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、AVアンプ/レシーバーの電源を切り、説明に従って接続してください。

注意

手入れ



手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。

必ず実行



薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

禁止



年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。

注意



本体の表面に金属、陶器、その他固いものを当てない。

表面にひびが入ったり、はがれたりする場合があります。

禁止

■お手入れのしかた

キャビネットを美しく保つため、柔らかい布などで軽く乾拭きをしてください。水気のあるものやアルコール、ベンジン、シンナー、殺虫剤などをかけたり、化学ぞうきんで拭いたり、ビニール系のシートなどを載せないようにしてください。色がはげたり貼り付いたりする場合があります。

目次

同梱品の確認.....	5	接続のしかた.....	7
スピーカーの設置.....	5	接続図.....	7
フロント/センター/ サラウンドスピーカーの設置.....	6	電源コードの接続.....	8
サブウーファーの設置.....	6	サブウーファーの使いかた.....	8
スピーカーを壁に掛ける場合.....	6	音量バランスの調節.....	8
スピーカースタンドを使用する場合.....	6	周波数特性図.....	9
		困ったときは.....	9
		仕様.....	10

同梱品の確認

同梱品がすべてそろっているか、確認してください。

サブウーファー (NS-SW280 x 1 台)
 フロント/サラウンドスピーカー (NS-B285 x 4 台)
 センタースピーカー (NS-C385 x 1 台)



スピーカースタンド (4 個)
 (※ 6 ページ)



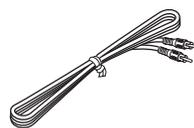
ネジ (4 個)
 (スピーカースタンド用)



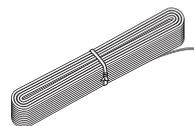
滑り止めパッド (4 個 x 1 セット)
 (センタースピーカー用)



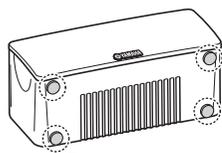
サブウーファー用
 ビンケーブル (5m x 1 本)



スピーカーケーブル (25m x 1 本)
 (フロント、センター、サラウンドス
 ピーカー用に 5 本に切ってお使いい
 ださい。切断時にけがをしないよう
 にご注意ください。)



■ センタースピーカー



滑り止めパッド

滑り止めパッド：固い床や棚の
 上に直接センタースピーカーを
 置く場合は、左図のように付属
 の滑り止めパッドをスピーカー
 底面の 4 隅に貼り付けてくださ
 い。振動によりスピーカーがず
 べるのを防ぎます。

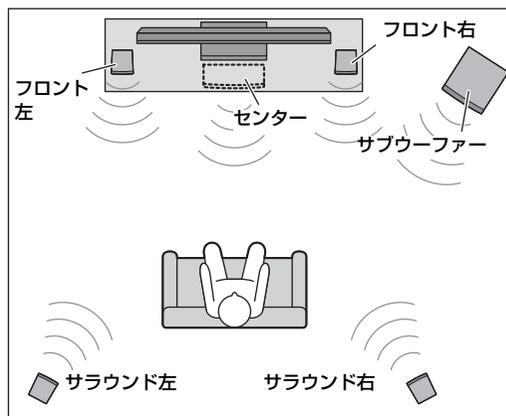
スピーカーの設置

スピーカーを接続する前に、各スピーカーを部屋に設置
 します。スピーカーの位置はシステム全体の音響に影響
 します。視聴位置で最適な音響が得られるように、各ス
 ピーカーを設置してください。右図のように設置すると、
 もっとも効果的な音場を得られます。

サブウーファーの重低音域には指向性がほとんど無いた
 め、サブウーファーの位置は他のスピーカーほど重要で
 はありません。詳しくは「サブウーファーの設置」
 (※ 6 ページ) をご覧ください。

ご注意

- スピーカーのみでは音を出すことができません。AV アンプ
 (別売り) に接続してお使いください。
- スピーカーをブラウン管テレビの近くに設置すると画像の乱れ
 や雑音が生じることがあります。そのような場合は、スピー
 カーとテレビを約 20cm 離してください。液晶テレビやプラ
 ズマテレビには影響しません。



フロント / センター / サラウンドスピーカーの設置

フロントスピーカー：テレビの左右に、まっすぐ正面を向けて設置します。

サラウンドスピーカー：視聴位置の左右後方に、少し内側を向けて設置します。

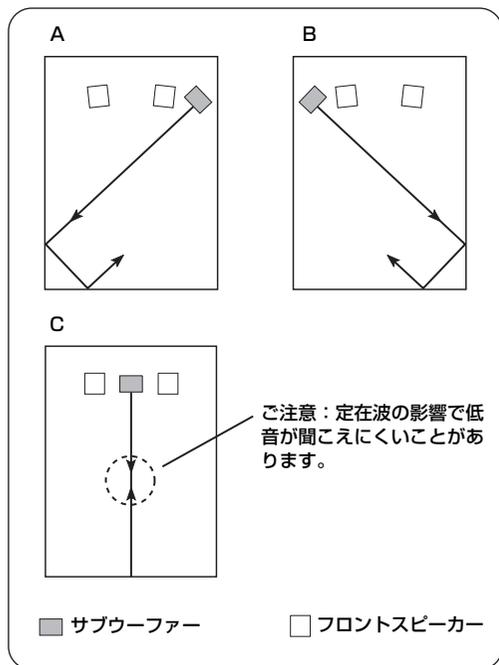
センタースピーカー：左右フロントスピーカーの真ん中に、まっすぐ正面を向けて設置します。

スピーカーを壁に掛けて使用する場合は、「スピーカーを壁に掛ける場合」をご覧ください。

フロントスピーカーとサラウンドスピーカーは、付属のスピーカースタンドを使って固い床や棚の上に直接置くことも可能です。詳しくは「スピーカースタンドを使用する場合」をご覧ください。

サブウーファーの設置

フロントスピーカーの左右どちらかの外側に設置します(図 A または図 B)。



正面を向けて設置した場合(図 C)、壁で反射した音とサブウーファーから出てきた音がぶつかり、打ち消し合ってしまうため、視聴位置(部屋の中心)で十分な低音効果が得られないことがあります。これは室内にできる定在波の影響です。これを避けるためには、サブウーファーを壁に対して少し斜めに向けると効果的です。

スピーカーを壁に掛ける場合

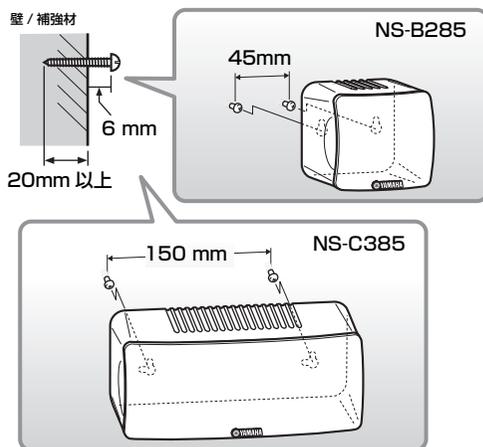
スピーカーを壁に掛けて使用することができます。

1 下図のように、十分に強度のある壁または補強材に、2本のタッピングネジ(市販品、直径3.5~4mm)を取り付けます。

2 タッピングネジの頭にスピーカー背面の穴を掛けます。

ご注意

- ・タッピングネジが、穴の狭い部分に確実に入っていることをご確認ください。

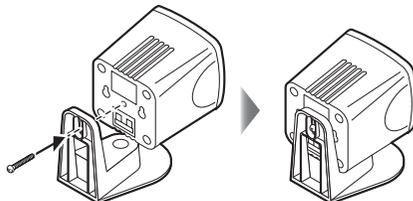


警告

- ・スピーカー 1 台の質量は、NS-B285 が 0.45kg、NS-C385 が 1kg です。モルタルや化粧ベニヤ板など、はがれやすい材質の壁には取り付けしないでください。ネジが抜けてスピーカーが落下すると、スピーカーの故障、けがの原因になります。
- ・スピーカーを釘や両面テープなどで取り付けしないでください。長期の使用により、振動で釘がゆるんだり、両面テープがはがれてスピーカーが落下する危険性があります。
- ・スピーカーケーブルに手足を引っ掛けることのないように、ケーブルは必ず固定してください。
- ・取り付け後は必ず安全性を確認してください。取り付け箇所、取り付け方法の不備による事故等の責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。

スピーカースタンドを使用する場合

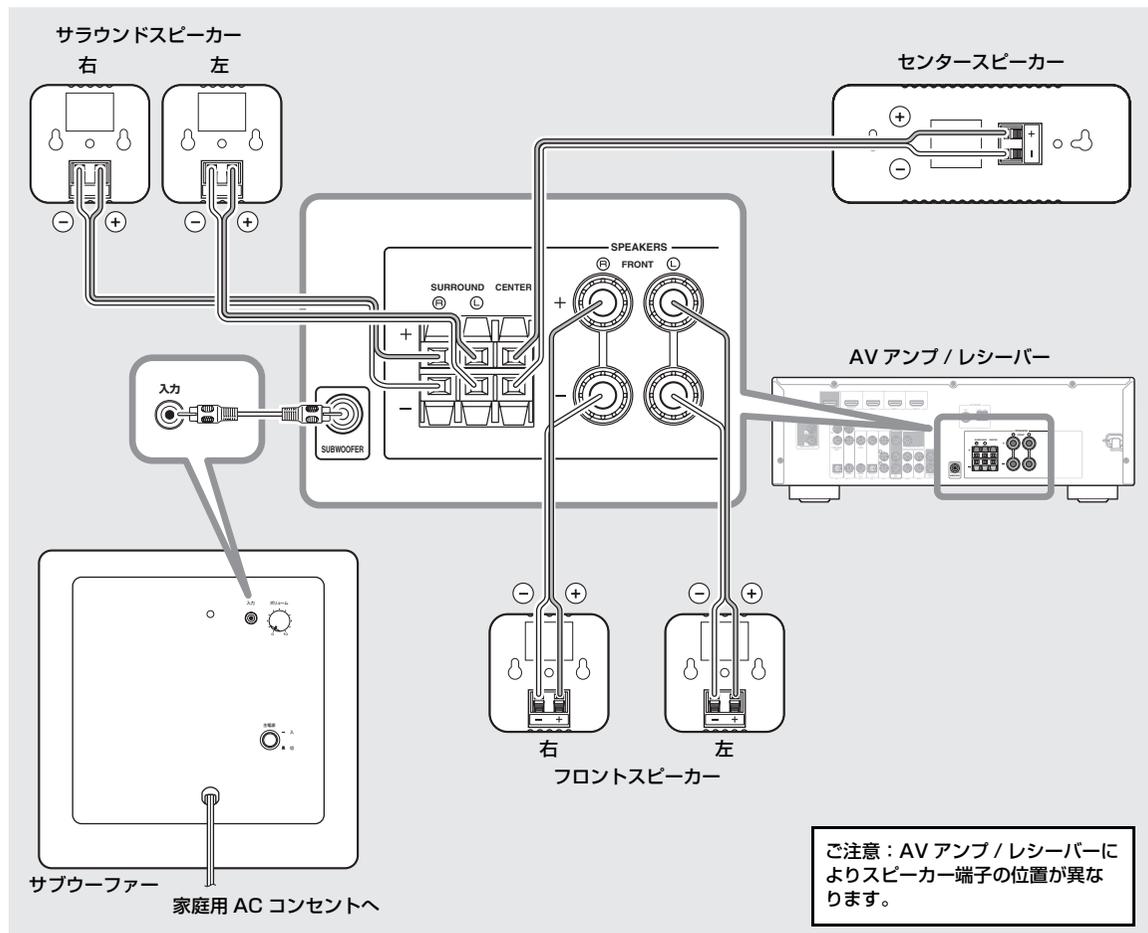
フロントスピーカーやサラウンドスピーカーは、付属のスピーカースタンドをネジで取り付けて、床や棚など平らな場所に置いて使用することができます。



接続のしかた

警告：すべての接続が完了するまで、サブウーファーおよび AV 機器の電源コードをコンセントに接続しないでください。

接続図



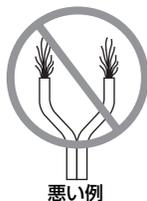
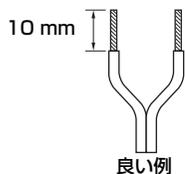
■ スピーカーケーブルの準備

スピーカーの設置が完了したら、付属のスピーカーケーブル (25m) をフロント左右、センター、サラウンド左右スピーカー接続用として用意します。

- 1 AVアンプ/レシーバー(以降はAVアンプと表記)から各スピーカーまでの配線を考慮のうえ、付属のスピーカーケーブルを5本に切断します。
- 2 スピーカーケーブル先端の絶縁部(被覆)を10mmほどはがします。
- 3 芯線をしっかりとよじます。

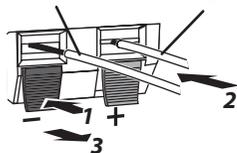
ご注意

- スピーカーケーブルはできるだけ短くしてください。たるみが生じても束ねたり巻いたりしないでください。
- 芯線がバラけないように、しっかりとよじってください。
- スピーカーケーブルを準備する際、けがをしないようにご注意ください。



■ スピーカー端子との接続

マイナス (-) プラス (+)



ご注意ください：ショートしないように、芯線部分だけを端子の穴に差し込んでください。

- 1 スピーカー端子のレバーを押し続けます。
- 2 穴にスピーカーケーブルの芯線を差し込みます。
- 3 レバーから指を離し、芯線を固定します。
- 4 スピーカーケーブルを軽く引っ張り、確実に接続されていることを確認します。

ご注意

- ・ 芯線どうしがショート（接触）しないように、しっかりと差し込んでください。しっかり差し込まれていないと、スピーカーや AV アンプをいためる原因になります。
- ・ 正しく接続されていない場合、スピーカーから音が出ません。

■ AV アンプとの接続

「接続図」（P7 ページ）を参考に、スピーカーに接続したケーブルを AV アンプの該当スピーカー端子に接続します。

必ずスピーカーと AV アンプのプラス (+) 端子どうし、マイナス (-) 端子どうしを接続してください。極性（プラス / マイナス）を間違えて接続すると、音が不自然になったり、低音が出ないことがあります。

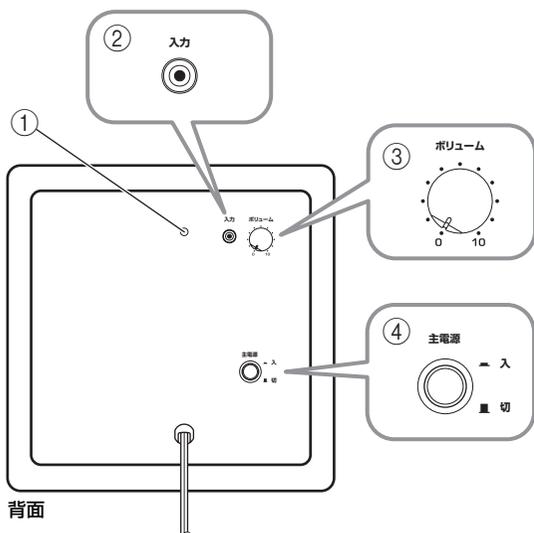
AV アンプでスピーカーサイズを指定する際は、すべてのスピーカーを「小」（または「S」）に設定してください。

ヤマハ製 AV 機器に接続する場合は、サブウーファーを SUBWOOFER 出力端子または LOW PASS 出力端子に接続してください。

電源コードの接続

スピーカーおよびサブウーファーの接続がすべて完了したら、サブウーファー、AV アンプ、各 AV 機器の電源コードをコンセントに接続します。

サブウーファーの使いかた



- ① **電源インジケータ**
主電源を入れると点灯し、切ると消灯します。
- ② **入力端子**
AV アンプのサブウーファー端子またはライン出力端子から信号を入力します。
- ③ **ボリュームツマミ**
サブウーファーの音量を調節します。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。
- ④ **主電源スイッチ**
押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。

音量バランスの調節

低音域を効果的に再生するは、サブウーファーとフロントスピーカーの音が自然につながるように音量バランスを調節する必要があります。

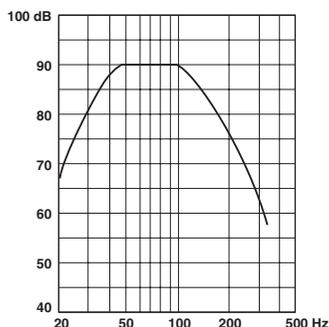
- 1 接続した AV 機器（サブウーファーを除く）の電源を入れます。
- 2 ボリュームツマミでサブウーファーの音量を最小 (0) にします。
- 3 主電源スイッチで、サブウーファーの電源を入れます。
電源インジケータが点灯します。
- 4 低音を含んでいるソースを再生し、AV アンプの音量を普段使用するレベルに調節します。
- 5 ボリュームツマミでサブウーファーの音量を徐々に上げていき、スピーカーとの音量バランスをとります。

ご注意

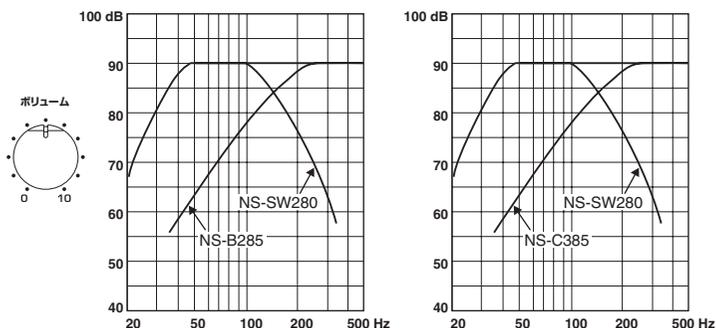
- ・ 音量バランスを設定した後は、AV アンプ側の音量調節だけで、全体の音量調節ができます。ただし、フロントスピーカーをかえた場合は、もう一度音量バランスを調節してください。
- ・ フルレンジシステム（サブウーファーとフロントスピーカーの関係）については「周波数特性図」（P9 ページ）をご覧ください。

周波数特性図

■ 下図はサブウーファー (NS-SW280) の音圧周波数特性です。



■ 下図はサブウーファー (NS-SW280) とフロントスピーカー (NS-B285)、センタースピーカー (NS-C385) の組み合わせによる音圧周波数特性です。



困ったときは

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。

対処しても正常に作動しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をオフにし、電源プラグを抜いて、お買い上げ店またはサービス拠点にお問い合わせください。

■ フロント / サラウンドスピーカー (NS-B285)
センタースピーカー (NS-C385)

症状	原因	対策
音が出ない。	スピーカーケーブルが正しく接続されていない (または不完全)。	接続を確認してください。
音が小さい。	スピーカーケーブルが正しく接続されていない (または不完全)。	左右や極性 (プラス / マイナス) が間違っていないか、接続を確認してください。

■ サブウーファー (NS-SW280)

症状	原因	対策
主電源スイッチを「入」にしても電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	いったん主電源スイッチを「切」にしてから、電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。
音が出ない。	サブウーファーの音量が最小 (0) になっている。	ボリュームツマミを右に回して音量を上げてください。
	サブウーファー用ピンケーブルが正しく接続されていない (または不完全)。	接続を確認してください。
低音が小さい。	低音域が少ないソースを再生している。	低音域が多く含まれているソースを再生して確認してください。
	定在波の影響を受けている。	サブウーファーの設置場所や向きを変更してください。

仕様

■ フロント / サラウンドスピーカー (NS-B285) センタースピーカー (NS-C385)

型式
NS-B285.....フルレンジ密閉非防磁型
NS-C385.....2ウェイ密閉非防磁型

スピーカーユニット
NS-B285.....6.5cm コーン型
NS-C385.....ウーファー：6.5cm コーン型
ツイーター：2.5cm バランスドーム型

許容入力
NS-B285.....30W
NS-C385.....50W

最大入力
NS-B285.....80W
NS-C385.....100W

インピーダンス.....6Ω

再生周波数帯域.....110Hz～40kHz

出力音圧レベル
NS-B285.....81dB/2.83V、1m
NS-C385.....84dB/2.83V、1m

クロスオーバー周波数
NS-C385.....8kHz

外形寸法 (幅 × 高さ × 奥行き)
NS-B285.....90×90×109mm (スタンドなし)
90×120×123mm (スタンド付き)
NS-C385.....220×90×109mm

質量
NS-B285.....0.45kg (スタンドなし)
NS-C385.....1.0kg

■ サブウーファー (NS-SW280)

型式.....アドバンスド・ヤマハ・アクティブ・
サーボ・テクノロジー方式

スピーカーユニット.....16cm コーン非防磁型

アンプ出力.....50W (100Hz、5Ω、10%THD)

アンプダイナミックパワー.....100W、5Ω

入力インピーダンス.....入力 (1P RCA pin jack) : 10kΩ

再生周波数帯域.....30Hz～160Hz

入力感度.....入力 (1P RCA pin jack) :
80mV (50Hz、50W/5Ω)

電源 / 電圧.....AC100V、50/60Hz

外形寸法 (幅 × 高さ × 奥行き)
.....262×264×316mm

質量.....6.9kg

* 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性—第3-2部：限度値—高調波電流発生限度値（1相当りの入力電流が20A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。



音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

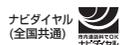
お問い合わせ窓口

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口



0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～17:00
(日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

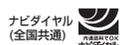
■ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

<http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/>

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ヤマハ修理ご相談センター



0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

FAX (053) 463-1127

受付：月～金曜日 9:00～18:00 土曜日 9:00～17:00
(日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 9:00～17:45
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間

お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。

摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例

ポリウムコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1



© 2011 Yamaha Corporation

ヤマハ株式会社
Printed in China ■ WY06990